

鳥文斎栄之《中洲の扇屋仮宅》
天明8年(1788) 磯川浮世絵美術館蔵



浮世絵の豊かな色彩表現の肝は「青」にあり

世界を魅了した「青」浮世絵名品展
—春信・歌麿の「露草青」写楽の「藍」北斎・広重の「ベルリンブルー」

2015.4.11[土]—5.31[日]

葛

しかほくさい
飾北斎(1760~1849)
の《富嶽三十六景》

シリーズは、世界で

最も有名な日本絵画の一つです。
とくに傑作として名高い《凱風快晴》において、赤富士の雄姿
を際立たせる鮮やかな空には、
舶来の青色絵具ベルリンブルー
(通称ベロ)が使われています。
ベロは浮世絵界にとって画期的な絵具でした。

それまで浮世絵に用いられてきた青色絵具は「露草青」と「藍」でした。「露草青」は露草の花弁

から採れる染料です。鳥文斎栄之(1756~1829)は《中洲の扇屋仮宅》で、欄干越しに見える隅田川に露草青を使いました。しかし光に弱く水に滲みやすいため、澄明な青は今、薄い橙色に退色しています。

「藍」は藍葉を発酵させた泡を集め固めた染料です。溪斎英泉(1791~1848)の《浮世風俗美女競看花復飲酒醉臥落花園》に描かれた嫋娜な女性の着物には藍が使われています。藍は退色しませんが、水に溶けないため陰影をつけにくく、くすんだ色調になるのが難点でした。理想的な青色表現は長い間の課題でした。

そこに登場したのが「ベロ」でした。ベロは1704年にドイツで生まれました。赤色を製造する過程で偶然造り出された合成顔料で、18世紀後半に長崎へもたらされました。近年の研究から、伊藤若冲や平賀源内などの絵画作品の一部にベロ使用の先行例が報告されていますが、全面的に活

用されたのは《富嶽三十六景》でした。ベロは鮮明さを保ったまま水と合性がよく分散するため、空の広さや海の深さを自由に表現することができました。

世界の人々が北斎の赤富士に感銘したのは、大胆で機知に富んだ構図のみならず、ベロの特性を最大限に生かした青色表現にある、ともいえましょう。

本展は、東京・磯川浮世絵美術館の名品100余点から青色表現の変遷をたどります。ここには同館長・故松井英男氏(元杏林大学医学部教授)による、青色絵具の成分分析の成果が反映されています。「青」に魅了された松井氏の研究の軌跡も伝えていきたいと思います。

(学芸グループ主任 河内えり子)



ミュージアムショップ

竹箆堂

一枚ずつ職人が手摺りした、温かな風合いの木版画。
しおりの素材は越前奉書紙(人間国宝・岩野市兵衛作)。



プレゼントコーナー

※抽選で4名様にマークの品を差し上げます(色デザインは当方で選びます)。「プレゼントコーナー応募」、ご住所、お名前、電話番号、隆泉の感想と隆泉に掲載したい一言コメントを明記の上、佐野美術館「隆泉」係まで郵便かFaxでお送りください。一言コメントのテーマは「思い出の絵本」です。しめきり: 2015年5月15日(消印有効)
・当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。
・いただいた個人情報はプレゼントの発送以外に使用いたしません。

ケイス

綿100%。
春先や初夏にぴったりです。



宮井株式会社

和更紗
刺繡はんかち
各1,080円(税込)



芸艸堂

歌川広重や
中村芳中の作品を
デザインした
てぬぐいです。
てぬぐい
各1,080円(税込)



「隆泉」2015年春号

通巻44号(年4回発行)

平成27年4月1日発行

編集・発行/公益財團法人 佐野美術館

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43

TEL 055-975-7278

FAX 055-973-1790

<http://www.sanobi.or.jp/>

デザイン/きむら工房

印刷/日本レーベル印刷株式会社

ネコを訪ねて世界を旅する

岩合光昭写真展「ねこ歩き」

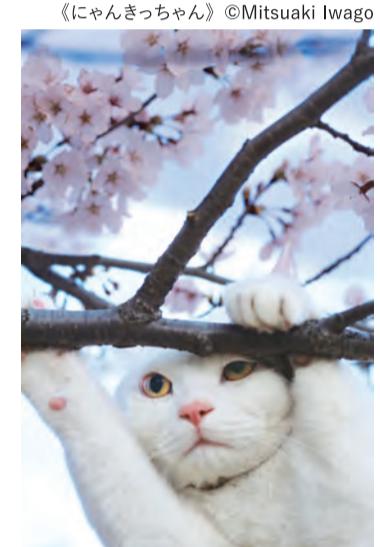
2015.6.6[土]—8.17[月]

み

なさま待望の岩合光昭写真展「ねこ歩き」を開催いたします。

動物写真家として世界中をフィールドに活動を続ける岩合光昭氏は、40年以上も日本をはじめ世界のネコを撮り続けています。平成24年度の「ねこ」展に続く岩合さんのネコの写真展、首を長くしてお待ちいただいた方も多いはず。さっそく本展の見どころをご紹介致しましょう。

まず第一章は、岩合さんが近年訪れたギリシャ、イタリア、トルコ、モロッコ、アメリカ、キューバを巡る「世界ねこ歩き」の旅です。ベルベルの集落で生まれたモロッコの子ネコや、巨大なハロウィン用のカボチャの横に寝そべるでっぷりしたアメリカネコ。どのネコもその土地に溶け込んでその土地のネコらしさを見せますが、この「世界ねこ歩き」のサブテーマは「世



界のどこにいてもネコはネコ」であるということ。美味しいものを作ってくれる人をちゃんと知っていて、ごはんはまだですか?と催促したり、一番寝心地の良い日向を見つけて昼寝をしたり。万国共通の「ネコらしさ」です。

第二章「日本を歩く」では日本で出会った各地のネコたち、第三章「わが家のねこたち」では愛猫「海ちゃん」や、新たに岩合家に仲間入りしたネコたちを紹介します。「にゃんきっちゃん」は岩合さんの娘さんのネコで、ときどき岩合家にお泊りにやってくる孫のような存在。木登りがちょっと苦手、それでも真剣な顔で必死に枝にしがみつく姿が、大変可愛いのです。でもにゃんきっちゃんは男の子なので、可愛いといわれるの外という、複雑な心情を持ち合わせています。

大胆で臆病、素直でへそ曲がり、甘えたがりで素っ気ない。そんなネコを愛してやまない岩合さんの写真には、ネコが持っている不思議な力が溢れています。ぜひ世界のネコたちに会いに来てください。

(学芸グループ 志田理子)

